

雑誌・新聞は弱くない。インターネットにその地位を取って代わられるほど、それらの力は弱くない。確かにインターネットは、華々しいIT革命の担い手であるし、他の情報伝達手段を激的なスピードで追い抜いてメディア界でトップの影響を持つまでに成長した。インターネットは、パソコンだけでなく携帯電話とも接続しているので、私達はわざわざ新聞や雑誌を購入しなくとも、日々の情報を得ることが出来る。知りたい情報だけを即座に知ることが出来るのだ。

現に、新聞及び雑誌の発行部数は伸び悩んでいる。マスコミ業界へ就職を考えている学生も積極的に上記の企業を希望する者の数は、年々減りつつある。利便性を追求する現代社会において、新聞・雑誌の両者は社会のニーズに答えきれなくなってきたのだ。

それならば、インターネットで事足るじゃないか。そんな意見がある。勿論、私もそう思いたくなる気持ちが分からなくもない。し

かしながら、その理屈は子供じみているように思うのだ。

インターネットの最大の弱点は、その莫大な情報量である。それは利点でもあるため、人々はその表裏一体の関係に気付くことができず、正しく弱点を捉えきれていないのである。インターネットの利用者は、情報をただ受けとるだけでなく、自ら能動的に情報を選択する。それは言い換えれば、自分の興味を引くものだけを選択することになり、ニュースは一種娯楽に化すのである。

ここにインターネットと新聞・雑誌の最も決定的な違いがある。新聞・雑誌には、知識と経験を積んだ編集者がいる。彼らが、現代の世相を理解するために必要だと思われるような情報を予め取捨選択して私達に提供してくれる。無論、そこに彼らの思想が反映されていること、棄却された情報が存在することを知っておかなければならないが、素人である私達がパソコンの画面上で勝手に取捨選択

名前:

をするよりは遙かにリスクの少ないことであ  
らう。知りたい情報以外に、知らなければな  
らない情報も存在するのだ。

インターネットがどんなに普及しようとも  
新聞・雑誌がその力に簡単にねじふせられて  
しまうことはないだろう。インターネットに  
あらがう新聞・雑誌の力こそ、社会を正しく  
理解しようとする人間の思考の力なのである。

(了)